

事務事業名	6891 広報事業														
担当組織	政策秘書室					政策秘書室					担当	広報・広聴担当			
組織コード	R2	03	02	00	会計・款・項・目・大事業・中事業	R2	01	02	01	02	01	01	記入日	令和 2年 6月19日	
	R1	03	02	00		R1	01	02	01	02	01	01			

1. 事務事業の概要

総合振興計画上の位置づけ		実施計画候補
基本目標	07 人が集い心ふれあうまち	● 対象 ○ 対象外
分野	03 市政情報の提供	
施策	76 広報活動の充実	
事業期間	昭和32年度～令和2年度	
根拠法令 通達等		関連計画 施政方針
事業区分	○ 法定受託事務 ○ 自治事務のうち義務的なもの ● 自治事務のうち任意のもの	
対象	市民（在住者及び在勤者も含む）、戸田市に関心のある人	
事業目的	市民と行政をつなぐパイプ役として、広報紙やSNSなどを通じ、市の政策や行政情報、身近なまちの話題を積極的に提供するとともに広くPRする。	
事業内容	市の政策や行政情報などを、広報紙やSNSをはじめとした様々な媒体を活用し配布・放映することで、戸田市の情報を提供する。	
実施主体	<input type="checkbox"/> 市による単独直営 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 (<input type="checkbox"/> 3セク・財団 <input checked="" type="checkbox"/> 企業 <input type="checkbox"/> 市民・NPO) <input checked="" type="checkbox"/> 協働・協力 (町会・自治会)	

2. 実施結果

事業の 予算・実績	事業内容		令和元年度 執行額(千円)	令和2年度 予算額(千円)	令和3年度 計画額(千円)	令和4年度 計画額(千円)	令和5年度 計画額(千円)
	事業内容		広報事業全般				
事業費			49,905	73,375	58,194	56,138	56,138
財源内訳	国庫支出金		0	0	0	0	0
	県支出金		0	0	0	0	0
	起債		0	0	0	0	0
	その他		0	0	0	0	0
	一般財源		49,905	73,375	58,194	56,138	56,138
人件費			30,336.64	34,787.84	34,787.84	34,787.84	34,787.84
投入 人員	常勤職員		4.43人	5.08人	5.08人	5.08人	5.08人
	非常勤職員		0人	0人	0人	0人	0人
事業費+人件費			80,242	108,163	92,982	90,926	90,926

目標達成 状況	指標名		単位	説明・算定式	H30目標 H30実績	R1目標 R1実績	R2目標 R2実績
	活動①	広報紙発行部数	部	1日号と15日号(1・8・12月を除くH30まで)	1,010,100	578,300	578,900
活動②	SNS・アプリ活用媒体数	件		1,010,100	578,900	—	
成果①	広報紙の世帯配布率	%	町会・自治会加入率(配布世帯数÷世帯数)	60	65	65	
	「tocoぷり」ダウンロード件数	件		62.5	61.5	—	
成果②				8,100	10,100	12,100	
				9,674	11,892	—	

目標達成 状況 の分析	B：活動・成果のいずれかを達成した。 <判断理由> 広報紙については、令和元年度からコンビニエンスストア19店舗に新たに配架するなど、広く手に取っていただける環境を整備し、発行部数を伸ばすことができている。広報紙世帯配布率の未達成については、配布を担う町会自治会と引き続き調整しながら率の向上に向け取り組んでいく。また、今後も効果的な広報が可能となるよう、インターネットメディアを中心に様々な媒体での情報発信について研究していく。
-------------------	---

3. 評価結果

施策への貢献度	評価結果			施策の目標達成に向けて貢献しているか。
	29年度	30年度	1年度	A：施策の目標達成に大いに貢献している。
	A	A	A	<判断理由> 市政情報を様々な媒体で積極的に発信することで、市民生活の充実や市への愛着心の醸成などに寄与している。
経費水準	評価結果			事業費・人件費の水準は適正か。
	29年度	30年度	1年度	A：経費の精査が十分になされている。
	A	A	A	<判断理由> 新たな広報媒体を活用する際も、その費用対効果も含め十分に検討した上で実施している。
事業手法	評価結果			事業手法は適正か。
	29年度	30年度	1年度	A：事業手法は工夫され、非常に効率的・効果的である。
	A	A	A	<判断理由> 広報紙の編集等に民間活力を活用していることに加え、広報事業全般に対し戸田市広報アドバイザーの専門的な見地から助言等をいただくことで効率的・効果的な広報活動ができています。
受益・負担の公平性	評価結果			受益の公平性と負担の適正化は図られているか。
	29年度	30年度	1年度	A：受益・負担は十分な検討、見直しを実施している。
	A	A	A	<判断理由> 広く全ての市民を対象として情報を発信しているため、広報紙をはじめとする広報媒体は無料で提供している。

4. 令和元年度中に実施した見直し内容

見直し内容	新たに戸田市広報アドバイザーを設置したほか、俳優の夏菜さんを第一号「とだPR大使」に任命、さらには令和2年1月号から広報紙のリニューアルを実施した。
見直しの効果	民間の専門的な知見を生かして効果的な事業展開ができています。著名人の情報発信力、情報誌風にリニューアルした広報紙などを活用し、市の魅力を市内外に広く発信することで、本市の知名度やイメージの向上のみならず、市民の市への愛着心の醸成にもつながった。

5. 今後の方針

事業の方向性	<input checked="" type="radio"/> 1 現状で継続 <input type="radio"/> 2 拡大して継続 <input type="radio"/> 3 縮小して継続 <input type="radio"/> 4 他事業と統合 <input type="radio"/> 5 休止 <input type="radio"/> 6 その他見直し <input type="radio"/> 令和3年度で終了 <input type="radio"/> 令和2年度で終了 <input type="radio"/> 令和元年度で終了
	<判断理由> 市民が必要な情報や、市の取組に関する情報を的確に届ける広報活動は、信頼ある市政運営に必要な不可欠である。
今後の取組方針	今後も、新しい媒体等について調査・研究を進め、戦略的に広報活動を実施していく。また、既存広報を補完する媒体として、SNSやスマートフォンアプリ等による情報発信を引き続き推進し、市内外の人に戸田市の魅力を積極的にPRしていく。